

長田弘『世界はうつくしいと』 表現技法や作者の伝えたいこと

長田弘「世界はうつくしいと」テスト対策まとめ



詩の形式と表現の工夫

口語自由詩って？

現代の話し言葉（口語）で、
リズムの決まりがない自由な形式

3つの重要な表現技法！



反復法
(例:「うつくしいと」)



省略法(例:「言おう」
の後に続く言葉を省略)



反語(例:「歴史だろうか」
(つまり、歴史ではないという強調))



「うつくしい」がひらがなののはなぜ？

風景だけでなく、挨拶や老いなどの
「尊いもの」を広く包み込むためだよ。



作者が伝えたいメッセージ

言葉に出すことの大切さ



感動を「言おう」と呼びかけ、
会話の貧しさを克服しよう！

「ニュース」と「あざやかな毎日」



事件（ニュース）は破片



何気ない日常の営み
こそが真の歴史！

永遠ではないからこそその美しさ



すべては塵に還る(有限である)からこそ、
今この瞬間が価値を持つのだ。

基本情報と詩の形式

作者	おさだひろし 詩人の長田弘
詩の形式	こうごじゆうし 口語自由詩
使われている表現技法	反復法・省略法・疑問の形で強い思いを表す表現（反語・修辞疑問）など



「世界はうつくしいと」詩の形式について

「世界はうつくしいと」の詩の形式は、^{こうごじゆうし}「口語自由詩」だよ。

「口語」というのは、今の日本で私たちが普通に使っている「話し言葉」のこと。

「自由詩」というのは、五・七・五のような文字数の決まり（ルール）がなく、自由に書かれた詩のことだね。

「うつくしいもののお話をしよう。」みたいに、普段僕たちが話しているような言葉で自由に書かれているから「口語自由詩」だね！

		口語	文語
		現代の話しことば	昔の書きことば
自由詩 字数にきまりがない		口語自由詩 (口語 + 自由詩)	文語自由詩 (文語 + 自由詩)
定型詩 字数にきまりがある		口語定型詩 (口語 + 定型詩)	文語定型詩 (文語 + 定型詩)

詩の形式の見分け表

表現技法と工夫について

この詩には、言葉の印象を強くしたり、読んだ人に余韻^{よいん}を残したりするための

「表現技法^{ひょうげんぎほう}」が使われているよ。テストによく出るのでしっかりチェックしよう。



反復法（リフレイン）

はんぷくほう

反復法とは

同じ言葉やフレーズを何度も繰り返すことで、リズムを生み出し、その言葉の印象を強く読み手に与える表現技法のこと。

詩の中で何度も「うつくしいと。」という言葉が繰り返されているよね。

これを繰り返すことで、作者が一番伝えたい「世界にはうつくしいものがたくさんある」というメッセージが強く心に残るようになっているんだ。

省略法

しょうりやくほう

省略法とは

文の終わりの言葉をわざと省くことで、読んだ人にその先の言葉を想像させ、深い余韻（後味）を残す表現技法のこと。

タイトルの「世界はうつくしいと」や、詩の中の「～はうつくしいと。」の後には、ある言葉が省略されていると考えられるよ。

なんだかわかるかな？詩の前半や後半に、ヒントになる言葉が隠れているよ。

「うつくしいものをうつくしいと言おう」って書いてあるね。

詩全体の流れから見ると、省略されている言葉は「言おう」だね。

「～はうつくしいと（言おう）。」という意味で読むことができるんだ。

最後まで言い切らずに「うつくしいと。」で止めることで、読んだ人それぞれが「自分もうつくしいものを声に出して言ってみようかな」と考える余白よはくを作っているんだね。

疑問の形で強い思いを表す表現（反語的な表現）

詩の後半に、こんな一文があるよ。

「一体、ニュースとよばれる日々の破片が、わたしたちの歴史と言うようなものだろうか。」



この一文は、「～だろうか。（いや、そうではない）」という強い否定の気持ちを含む「反語的な表現」として読むことができるよ。

「ニュースで流れるような大事件だけが、私たちの歴史だろうか。（いや、そうではない。日々の何気ない毎日こそが価値あるものだ）」という、作者の強い思いを伝えるためのテクニック（読者に考えさせるための問題提起）になっているんだね。

対比による効果

作者は、特別な大事件である「ニュースの破片」と、何気ない日常である「あざやかな毎日」を対比（反対の意味で並べること）させて、日常の尊さを強調しているんだね。

なぜ「美しい」ではなく「うつくしい」とひらがなのなの？

作者はなぜ、漢字の「美しい」ではなく、ひらがなで「うつくしい」と書いたのだろうか？漢字の「美しい」だと、風景が綺麗だったり、見た目が整っていたりするイメージが強くなるよね。

でも作者は、「なにげない挨拶」や「老いてゆく人の姿」など、見た目だけではなく「心惹かれるもの」や「尊いもの」も含めて伝えたかったと考えられているんだ。だから、意味を限定しない、柔らかくて広がりのあるひらがなを選んだのかもしれないね。

詩の構成と内容の読み解き

この詩は、大きく分けて3つのブロック（まとまり）で書かれているよ。それぞれの内容を読み解いていこう。

第

1のまとまり（問題提起と提案）

最初は、作者の「危機感」からスタートするよ。

人々が「うつくしい」という言葉をためらわずに口にすることがなくなり、その結果「わたしたちの会話は貧しくなった」と言っているね。



言葉にしないと、うつくしいものに感動する心も失われてしまう。
だから作者は「うつくしいものをうつくしいと言おう」と提案しているんだ。

第2のまとめ（「うつくしいもの」の具体例）

中盤には、作者が「うつくしい」と感じるものがたくさん並べられているよ。
よく見てみると、自然の景色だけではないことに気づくかな？

- 風の匂い、^{けいこく}溪谷の流れ、雲の影（自然の風景）
- 大きな樹のある街の通り、奥行きのある路地（身近な景色）
- なにげない挨拶、老いてゆく人の姿（人間の営み）

作者が考える「世界」とは、大自然だけでなく、私たちが暮らす身の回りの何気ない生活そのもののことなんだよ。

また、これらの風景は「目で見ると^{しかく}（視覚）」だけじゃないよね。

「風の匂い（^{きゅうかく}嗅覚）」や「静けさ・挨拶（^{ちようかく}聴覚）」など、私たちの「五感」を使って感じるものが表現されているのもポイントだよ。

第3のまとめ（作者のものの見方・考え方）

最後は、作者の深いものの見方や生きることへの考え方が語られている重要な部分だよ。

「何ひとつ^{えいえん}永遠なんてなく、いつか
すべて塵にかえるのだから、世界はうつくしいと。」

「老いてゆく」ことや「塵（ちり）にかえる（死んで無くなる）」ことは、普通はマイナスのイメージだよな。

でも作者は、「永遠に続かないからこそ、今この瞬間の『あざやかな毎日』が尊くて、うつくしいんだ」と考えているんだね。

「世界はうつくしいと」言葉の意味
詩の中に出てくる少し難しい言葉の意味を確認しておこう。



言葉の意味

詩の中に出てくる言葉の読み方や意味を確認しておこう。

言葉	意味
ためらわず	迷ったり、ためらったりすることなく。
ニュースとよばれる日々の破片（はへん）	毎日のニュースで切り取られて流れてくる、出来事の一部のこと。作者は、それだけが私たちの歴史なのではないと考えているんだね。
シュロ	ヤシ科の植物。 <small>しゅろ</small> 棕櫚。キリスト教の行事（灰の水曜日など）で、この枝を燃やした灰を使うことがあるよ。「植物を燃やして灰にし、自然に還す」という、命あるものが灰になって自然に <small>かえ</small> 還っていくことを考えさせる例として書かれているんだ。
塵（ちり）にかえる	命あるものが死んで、土（自然）に還っていくこと。「永遠ではない」ということ <small>しょうちょう</small> の象徴だね。

作者の思い・伝えたいこと（主題）

作者の長田弘さんがこの詩を通して伝えたいことは、大きく2つあると考えられているよ。

1. 言葉に出して伝えることの大切さ

「うつくしい」と感じる心を失わないために、恥ずかしがらずに言葉にして「言おう」ということ。



2. 日常の「あざやかな毎日」への気づき

ニュースになるような特別な出来事ではなく、身の回りの何気ない風景や挨拶こそが私たちの価値であり、命は永遠ではないからこそ、今この世界はうつくしいんだということ。

みんなにとっての「うつくしいもの」は何かな？

学校の帰り道に見える夕焼けとか、部活のあとの冷たい水とか、友達との笑い声とか・・・身近なところにたくさんありそうだね！

テスト対策ポイントまとめ（直前チェック用）

最後に、テスト直前の最終チェック用にポイントを絞ってまとめるよ。

- 作者：おさだひろし長田弘
- 形式：「口語自由詩」
- 表現技法：「反復法」「省略法」、そして「疑問の形で強い思いを表す表現（反語的な表現）」など。
- 省略語：「世界はうつくしいと」のあとには「言おう」という言葉が続くと考えられる。
- 主題（伝えたいこと）：「言葉に出すことの大切さ」と「永遠ではないからこそ、身近な人間の営み（あざやかな毎日）に価値がある」ということ。

